

令和3年11月15日

瀬戸内市議会議員

瀬戸内市議会議員 厚東 晃央

政務活動費研修報告書

政務活動費を使用して、次のとおり研修活動をしましたので、その結果を報告します。

期間	令和3年11月14日
研修会名	日本財団海と日本のプロジェクト 「世界の宝石—瀬戸内海」を磨く 瀬戸内海 海ごみフォーラム 2021
開催場所	両備 杜の街グレース会議室（岡山市北区下石井 2-10-7）
研修内容	第1部 講演：「森里川海のつながりを取り戻そう」 —地球環境危機へのヒント— 森本 英香 氏 （早稲田大学法学部教授 元環境事務次官） ・コロナ禍が教えてくれたこと 心の豊かさを優先することが大切 人の不幸の上では幸せには暮らせないはず ・環境の危機 気候変動、二酸化炭素の増加による影響 海洋プラスチック汚染が生態系を壊している ・世界が立ち上がっている現状 脱炭素化が世界的な流れに ・日本が立ち上がっている現状 日本の取り組みは遅い もっと強い政策が必要 ・もう一つのチャレンジ 森、里、川、海は循環している。一つに着目するのではなく、全体的に改善を目指すことが大切



	<p>事例発表</p> <p>岡山県浅口市立寄島小学校4年生 「きらりがいっぱい！守れ寄島の海と人」 海と関わる学習の発表、海ごみ拾いの実践の報告</p> <p>岡山県新庄村立新庄中学校生徒会 「ふるさと新庄学の取組」 ごみ学習、海ごみ拾いの実践、SNS 発信の報告、 広島県環境県民局環境保全課 「広島県の海洋プラスチックごみ対策」 広島県での取り組みを報告</p> <p>第2部 講演：海を母とする「私たちの生きもの」の中の私 中村 桂子 氏 (JT 生命誌研究館 名誉館長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然界にごみはなく、ごみを作り出しているのは人間 ・グレタさんをはじめ子どもたちの叫び ・生き物がつながっていくために取り組みが必要 ・つながりの中に自分自身がいることを忘れてはいけない <p>・海ごみだけで考えるのではなく里・山・川・海・人間 すべてがつながっている</p>
<p>所感</p>	<p>海ごみの汚染は深刻さを増している現状の報告がされた。海洋プラスチックごみの海洋汚染は生物に対しても、その種を維持できるかどうかの強い影響を与えている。</p> <p>講演中で「自然界で発生したものは自然淘汰されていくが、人間が作り出したもの（プラスチックなど）はごみとなる」という発言には、改めて今の社会の在り方に疑問を感じた。しかし、すべての文明をなくすことはできない。ごみの問題で人間も暮らしにくい地球にしてはいけない。ごみを減らすこと、出さないことは必要であり、その循環の中に自分自身も存在していることを忘れてはいけないと感じた。</p> <p>事例発表は、それぞれの取組の積み重ねが大切だと感じた。ごみ問題は取り組まなければならない問題なので、小学生のころからごみ拾いなどの体験を通して実感しながら学んでいくことが必要である。</p> <p>わが市でもごみ削減の取組は続いているが、削減目標には届いていない。海ごみの深刻な現状も報告しながら、市の取り組みや市民の意識を変えていく必要がある。ごみ削減を掲げているのだから、議会でもしっかり取り上げていくことで市の政策をより効果のあるものにしていく必要があると感じた。</p>